

新4つのC及び各指標等について

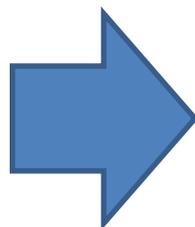
令和2年12月28日

柏市教育振興計画策定有識者懇談会資料

4つのC(4つの力)の見直し

■ 4つのCの現状

- 子どもたちの学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況を測る指標として、柏市教育振興計画後期基本計画の策定時に設定
 - 柏市学力・学習状況調査の40の質問項目を基に、「見通す力」(Concept), 「挑戦する力」(Challenge), 「関わり合う力」(Communication), 「自律する力」(Control)の4つのC(4つの力)として整理
- 学びづくりフロンティアプロジェクト実施校の一部では、4つのC(40指標)のうち、いくつかの指標に着目した指標を実施
- 柏市全体の4つのCには大きな動きがなく、具体的な活用につながっていないのが実態



■ 新4つのCの狙い

- 活用されやすい指標となることを目指し、
- 指標の数を厳選する。
- より具体的な文言とする。
- 全ての項目ではなく、学校の実態に応じて、いくつかの項目に特化して目標を立てることを想定
- 参考資料として、各項目を高めるための取組例を示していく。
- 各校・柏市全体における4つのCの動きを事務局で分析し、課題を把握する。

新4つのCの項目設定の考え方

- 現4つのCの、「見通す力」、「挑戦する力」、「関わり合う力」「自律する力」という土台を維持
 - この4つの力は、現4つのCの設定時に、学校管理職、学校教職員、市役所事務系職員、指導主事、管理主事等総勢50人近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードであり、一定の普遍性があると判断
- 第2次柏市教育振興計画の目指す方向性である「学び続ける力」「多様性の尊重」に関連する力を中心に、具体的な能力の項目案を決定
- 児童生徒への質問項目は、別途事務局内で検討
⇒ 柏市学力・学習状況調査で小学校2年生～中学校3年生に調査

新4つのCの項目案

4つの力(C)	見出し	項目
見通す力 (Concept)	夢・目標	将来の夢や目標を持つことができる。
	計画	物事に取り組むときに、計画を立てることができる。
	振り返り	学んだ結果、よく分かったこと、あまり分からなかったことを整理することができる。
	分かる努力	分からなかったことを友達や先生に聞いたり、調べたりすることができる。
	改善	物事に取り組んだ時に、どうすればもっと良くできるか考えることができる。
挑戦する力 (Challenge)	目標への努力	夢や目標に向かって、近づくための努力をすることができる。
	粘り強さ	諦めずに粘り強く取り組むことができる。
	挑戦	失敗を恐れずに挑戦することができる。
関わり合う力 (Communication)	相手の立場に立って考える力	自分が相手の立場だったら、どう思うかと想像しながら、発言や行動をすることができる。
	思いやり	困っている友達や他人に声をかけることができる。
	伝える力	友達に自分の考え・意見を説明することができる。
	傾聴	話し合い活動の際に、他人の意見を最後まで聞くことができる。
	相談する力	悩んでいることや心配していることを、先生、友達、保護者などに相談することができる。
	協働	自分だけでは解決できない問題について、友達や先生の助けを求めて、一緒に取り組むことができる。
	地域との関わり	自分が学んだことを、自分が住んでいる地域や社会の問題解決に役立てようとするすることができる。
自律する力 (Control)	主体性	課題に自ら取り組むことができる。
	自己肯定感	自分の良いところを思い浮かべることができる。
	規範意識	決められたルールを守ることができる。

各指標について

- 計画全体を総合的に測る指標として、「学校が好き」と感じている児童生徒の割合を、引き続き設定
⇒第2次柏市教育振興計画では、その理由も併せて確認する予定
- 事業等の実施状況を把握し、改善につなげることができるよう、現計画に比べて、指標の数を増加
- 指標については、以下の区分により3類型を設定
 - 達成指標
事業による児童生徒・教職員等の変化(成果)を測定する指標
 - 活動指標
事業自体の実施状況を測定する指標
 - 参考指標
児童生徒・教職員等の状況を把握し、事業の参考とするために測定する指標

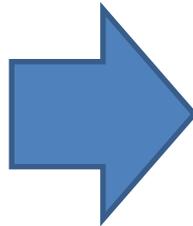
※本来、達成指標が望ましい指標であるものの、具体的な変化(成果)が見えにくい指標、外的要因が多い指標なども存在するため、3つの類型を設定

基本方針案の変更について

■ 変更の理由

- 「未来にはばたく柏っ子」を第2次柏市教育振興計画における学校教育部分の基本方針案として、第2回懇談会で提案
- その後、事務局内で調査をしたところ、一部の地域で、その地域の子どもに関する表現として「柏っ子」を使用していることが判明

⇒基本方針案を変更する必要



「未来につなぐ柏の教育」

- 「未来にはばたく柏っ子」の考え方である「子どもたちが未来の社会を生きる力の基礎を培う」という考え方を基に作成
- 「柏っ子」を「柏の子ども」に変更する案もあったが、「柏の教育を受けた子ども」という概念が薄まるため、やや子ども主体という考え方が薄れるが、「柏の教育」とした。